

上三川 近代化の歩み

〜明治維新から戦前まで〜

近代郵便制度の確立

日本の近代化を進める上で、河川交通、鉄道、そして道路交通網の整備は欠かせないものでした。しかし、これ以上に重要なのは、これらを利用して、効率的に物や情報運ぶための手段を開発し、実用化することでした。

このような中で、1871年(明治4)に、政府の役人であった前島密は、欧米を模倣して近代的な郵便制度を開始しました。当初は東京〜大阪間の東海道各駅で開始されましたが、翌年の7月1日には、北海道の一部を除いて全国で実施されました。栃木県でもこの年に、郵便役所と主要郵便取扱所が開設されましたが、しばらくの間、現在の上三川町の範囲には郵便局は置かれず、石橋郵便局の管轄下にあります。4年後の1876年(明治9)に、上三川地区と本郷地区を集配範囲とする、上三川郵便局が開設されました。



昭和39年当時の上三川郵便局

便局が開設されましたが、明治地区は引き続き石橋郵便局の管轄でした。

その後、1896年(明治29)には小包郵便の取り扱いが始まるなど、現在と同じような郵便業務が行なわれるようになります。このように、様々な業務を行なうようになった上三川郵便局には、明治30年代後半に職員数が7名であったものが、明治末年には9名となり、昭和初期には12名と増えています。取扱量でも、1899年(明治32)には約10万通の通常郵便と782通の小包郵便を取り扱っていましたが、1929年(昭和4)には約87万通の普通郵便と7、900通の小包郵便を取り扱うようになります。30年の間に普通郵便は約9倍に、そして通常郵便は約10倍になるなど、上三川と他地域との物や情報のやり取りが急激に活発化していることがわかります。ちなみに1906年(明治39)に、上三川郵便局が取り扱った荷物で他地域に運ばれたものは、干瓢・米・雑穀・繭・酒などであり、逆に持ち込まれたものは肥料・衣類・雑貨などで、東京・大阪・北海道・長野・群馬・茨城・福島・宮城・宇都宮・足利・栃木・結城が主要な取引先でした。

このように、郵便制度が開始され整備されたことにより、上三川から全国に、手紙や荷物を短時間で安定して運べるようになりました。この物流の革命児である郵便制度の裏には、鉄道網の整備、そして道路交通網の整備などが大きく影響しており、これらが合体し、物流の近代化が確立したといえます。

広報俳句

被災地に降る新雪の重かりき	浜野 正男
大銀杏散りて寺領の荘厳す	大八木喜重郎
悲喜交々日誌捲れる師走かな	柳田 石村
鍬始余生を土に癒されし	伊沢 静香
指先に願をこめてメ縄造る	浜野マス子
ひと竿の吊し柿背に立話	阿部 信子
少しだけ老の粧い初鏡	野沢 花枝
ろう梅のとろけるような香りかな	石崎 節子
梯子上庭師のくさめ松ゆする	蓬田 四方
氏神を掃き清めけり実南天	上野キミエ

お年玉クイズ

恒例のお年玉クイズです。正解者の中から抽選で10名に記念品を差し上げます。

問題

- ①12月1日現在の上三川町の人口は？
- ②障害児学童保育館の名前は？
- ③しらさぎ駅伝競走大会は何月何日？

応募先

ハガキで、〒329-0696 上三川町しらさぎ一丁目1番地 企画課広報統計係まで。

また、広報に関するご意見などもあわせてお聞かせください。たくさんのご応募お待ちしております。

当選者は3月号で発表します。

